ポスター | 病院情報システム
ポスター8
病院情報システム
2019年11月23日(土) 15:40 〜 16:40 ポスター会場1 (国際展示場 展示ホール8)

[3-P1-4-04] トヨタ記念病院の情報共有ツール活用の工夫点と今後の改善に向けて

○藤谷 祥帆[1]、藤井 章雄[1]、内藤 英夫[1]、下川 和輝[1]（1. トヨタ記念病院）

キーワード：information sharing tool, improvement, communication, intranet website, digital signage

【概要】トヨタ記念病院では、院内情報共有ツールとして E-NEWS（職員向けイントラ Webサイト）と T-Vision（職員向けデジタルサイネージ）を活用しています。
　E-NEWSは、医療系職員がよく使用する電子カルテ端末、事務系職員がよく使用する OAパソコン、どちらの端末からも閲覧が可能な院内全職員の情報共有ツールとして、2005年に立ち上げました。当院の方針や経営指標（日々の病床稼働率、他）、各科・部署からのお知らせ・各種帳票、また、システム障害等の緊急伝達情報などを掲載し、院内職員が必要な情報を必要なときに取りにいけるようになっています。
　T-Visionは、社内外の情報をタイムリーに発信・共有し、職員間のコミュニケーションのきっかけづくりをするために、トヨタ自動車で全社的に導入しているデジタルサイネージです。導入当初の2016年1月は2台でしたが、現在では21台導入しており、職員の共用スペースや各部門に設置されています。

【工夫点】 E-NEWSの工夫点として、1日1回は必ず閲覧してもらうこと、重要な情報は目につきやすくすること、パワーポイントの機能変更に伴う掲載方法の変更をしています。

【課題】 E-NEWSのコンテンツは HTML形式で手作りされており、編集ツールが使いづらいという点があります。
また、現状では検索機能がない、動画コンテンツの掲載が難しい、スマホ・タブレットでは閲覧ができないなど、機能不足の点での課題も抱えています。

【今後】老朽更新を機にパッケージ活用や機能強化の検討を行い、よりよい情報共有ツールとなるよう改善していく予定です。

©一般社団法人 日本医療情報学会

トヨタ記念病院の情報共有ツール活用の工夫点と今後の改善に向けて

藤谷祥帆[*1]、藤井章雄[*1]、
内藤英夫[*1]、下川和輝[*1]
*1 トヨタ記念病院

Improvement of Information sharing Tool In Toyota Memorial Hospital

Sachiho Fujitani[*1] , Akio Fujii[*1] , Hideo Naito[*1] ,
Kazuki Shimogawa[*1]
*1 Toyota Memorial Hospital

Toyota Memorial Hospital uses E-NEWS and T-Vision as in-house information sharing tools. E-NEWS is an intra website that posts our policies, management indicators, news from each department and department. T-Vision is a digital signage for employees that has been introduced company-wide as a mechanism for creating communication opportunities between employees at Toyota Motor Corporation. This time, E-NEWS, which has been used for many years as an in-hospital information sharing tool, will be checked from the launch to the present, and what improvements and ingenuity will be needed for future renewal. The number of accesses to E-NEWS was investigated, and the usage status of E-NEWS and frequently used contents were confirmed. The number of accesses increased almost from the start of 2005 to 2018, indicating that E-NEWS has penetrated as an information sharing tool and is used by many employees. The content that is frequently used is directly related to daily work, and it is thought that making the content easier to use will lead to more efficient work. In the future, the staff will be interviewed to confirm the needs of the site, and will study the details for future renewal so that it will be an easy-to-use information sharing tool.

Keywords: information sharing tool, improvement, communication, intranet website, digital signage

1. はじめに

トヨタ記念病院（当院）では、院内の情報共有ツールとして、E-NEWS と T-Vision を利用している。

E-NEWS は、当院の方針や経営指標（日々の病床稼働率等）、各診療科・各部署からのお知らせ（病院 NEWS）等を掲載しているイントラ Web サイトである。職員が必要な情報を、必要なときに入手できるようになっている。

T-Vision は、トヨタ自動車で従業員間のコミュニケーションのきっかけづくりをする仕組みとして全社的に導入している、従業員向けのデジタルサイネージである。会社方針や役員メッセージといった経営に関わる情報や、全社イベントの情報等、全社に広く見える化するためのツールとして活用されている。トヨタ自動車の一部署である当院でも、2016 年 1 月に 2 台から導入をし始め、現在では 21 台が設置されている。

今回は、院内の情報共有ツールとして長年利用されている E-NEWS について取り上げる。

2. 背景

電子カルテを導入した 2003 年当初は、電子カルテの情報共有ツール（掲示板機能）を利用していたが、電子カルテ端末からしか閲覧ができなかった。医務職が主に利用する電子カルテ端末と、事務職が主に利用する OA 端末の 2 種類の端末があり、電子カルテ端末からしか閲覧ができない情報共有ツールでは、職員への情報共有が難しいという課題があった。その課題を解決するために、電子カルテ端末からも OA 端末からも閲覧ができる、E-NEWS（イントラ Web サイト）を 2005 年 6 月に立ち上げた。この E-NEWS を利用することで、スムーズな情報共有が可能となった。

2010 年 12 月には E-NEWS トップ画面のレイアウト変更をしている。このレイアウト変更では、利用頻度が高いコンテンツのより利用しやすい場所への配置と、病院 NEWS の掲載スペースの拡張を実施し、職員がより利用しやすくなった。

その後、新しいコンテンツも追加され内容が充実した一方で、コンテンツが増えすぎたため、必要な情報の閲覧に時間がかかるといった声もあがっている。2019 年度に実施予定の E-NEWS サーバ老朽更新に合わせて、大幅なリニューアルを検討中である。

3. 目的

■当院における課題

当院では、E-NEWS のコンテンツが充実した一方で、どこにどのような情報があるのか把握しきれず、必要な情報を入手するまでに時間がかかるといった声があがっている。

日常業務にも欠かせない情報共有ツールでもあるため、必要な情報をすぐに入手できないことは職員にとって大きな負担であり、今後改善するべき課題と認識している。

■情報共有ツールのあるべき姿

利用する場所を選ばず、必要なときに必要な情報を適切かつタイムリーに入手できるツールであること。

あるべき姿を目指すために、14 年間利用し続けてきた E-NEWS について、立ち上げから現在までの利用状況を確認する。

さらに、今後のリニューアルに向けて、E-NEWS が職員にとってより便利な情報共有ツールにするために、どのような改善・工夫が必要かを整理する。

4. 方法

E-NEWS へのアクセス件数を調査し、①E-NEWS 全体のアクセス件数から E-NEWS の利用状況と、②各コンテンツの利用割合から利用頻度の高いコンテンツを確認した。

4.1 対象データ

①E-NEWS 全体のアクセス件数

2005 年度から 2018 年度までの、電子カルテ端末および OA 端末からの E-NEWS へのアクセス件数とした。

②各コンテンツの利用割合

2018 年度のアクセス件数から、各コンテンツの利用割合を算出した。

4.2 アクセス件数の集計方法

E-NEWS の Web サーバソフトは Microsoft 社が提供する IIS（Internet Information Service）を利用している。IIS の標準機能を利用して、毎日アクセスログを出力している。出力されたテキストデータに含まれる各コンテンツの URL で絞り込みをし、集計をおこなった。

5. 結果

①E-NEWS 全体のアクセス件数

E-NEWS 全体のアクセス件数の推移は図 1 のようになった。立ち上げ時の 2005 年度は 18,349 件、直近の 2018 年度は 63,616 件であり、立ち上げ時から約 3 倍のアクセス件数となっていた。また、年々アクセス件数はほぼ右肩上がりで増加していた。さらに、2010 年度から 2013 年度にかけてアクセス件数が大幅に増加していたことが分かった。

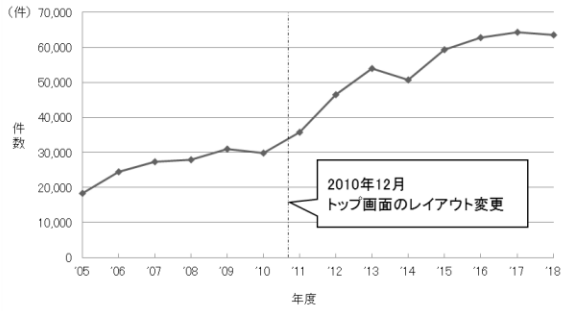

図 1 E-NEWS 全体のアクセス件数の推移

②各コンテンツの利用割合

直近の 2018 年度におけるコンテンツの利用割合を見ると、図 2 のように、特に 4 つのコンテンツが多く利用されていることが明らかとなった。割合は病院 NEWS が 25%、電話帳が 23%、当直表/当直日誌が 15%、院内共有ファイルサーバのインデックス（アクセスしたいフォルダ名をクリックすると、フォルダが開く仕組み）が 10%であった。

また、この 4 コンテンツの利用割合が全体の 4 分の 3 を占めていた。

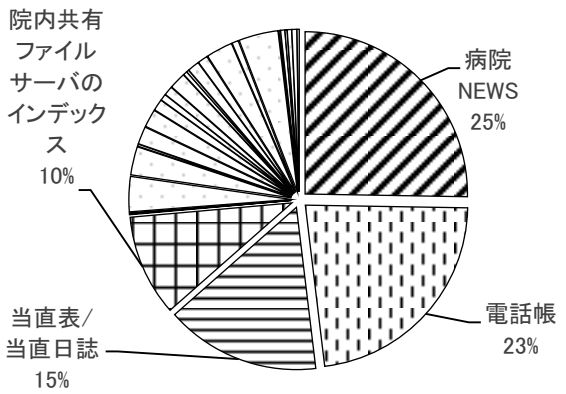

図 2 コンテンツ別の利用割合（2018 年度）

6. 考察

①E-NEWS 全体のアクセス件数

立ち上げ後の 1 日 1 回見よう活動の実施と、電子カルテのログイン画面に E-NEWS を表示したことがアクセス件数の増加に繋がり、情報共有ツールとして職員に浸透したと考えられる。

また、2010 年度以降のアクセス件数の増加は、2010 年 12 月に実施したレイアウト変更で、利用頻度の高いコンテンツがより利用しやすく見やすい場所にコンテンツを配置したことが効果的だったと推測される。そのため、今後のリニューアルでも同様に、利用頻度の高いコンテンツを利用しやすく見やすい場所に配置する必要があると考えている。

②各コンテンツの利用割合

多く利用されている 4 コンテンツは職員の日常業務に直結した内容であるため、より便利にすることで業務の効率化に繋がると考えられる。今回の調査に加え実際に使い勝手がどうなのか、どのような機能があるとより便利になるのかを職員へのヒアリングし、現場のニーズを確認しながら検討していきたい。

また、現状では電子カルテ端末または OA 端末といった PC からのみの閲覧となっており、PC のある場所に行く必要がある。将来的にはスマホ・タブレット等のモバイル端末からの閲覧にも対応することと、検索ツールの導入等で検索時間を短縮することで、必要な情報をよりタイムリーに入手できるよう改善したいと考えている。

7. 結語

院内の情報共有ツールとして 2005 年 6 月に立ち上げた E-NEWS は、これまでも改善がされてきているが、まだ課題を抱えている状況である。その課題を解決するために、E-NEWS のアクセス件数と各コンテンツの利用割合を調査し、これまでの利用状況と今後の改善内容を整理した。現在はまだ検討段階ではあるが、職員にとってより便利な情報共有ツールとなるよう課題解決に努めていきたい。